令和４年度小松市立松陽中学校　学校評価　１（中間）

めざす児童生徒像

・お互いの頑張りや努力を認め、仲間を思いやる生徒　　「温かな学校」
・凡時徹底ができる生徒　　「時を守り　場を清め　礼を正す」
・失敗を恐れず夢や目標に挑戦する生徒

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	自己肯定感の向上		・全項目において、達成度を90%以上にする。①②は100%をめざす。	①	自分にはよいところがある。	91.4	78.4	85.4	-13	・①の値が、教員、保護者よりも生徒が大きく小さく、表面的な表情に比べ、内面において不安を抱える生徒や自信のない生徒が多いと考えられる。 ・③の値では逆に、教員や保護者が思っているよりも多くの生徒が将来を考えている。しかし、値としては低い。	・自己肯定感や自己有用感を高めるため、生徒一人一人が活躍する場を設定し、学級会や委員会活動、学校行事などで認め合う機会を設定する。 ・授業改善をより進め、生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを目指す。 ・学力向上に向けての方策を再考し、取り組む。 ・３年間を見通したキャリア教育の充実を図る。
				②	先生は、あなたのよいところを認めてくれる。	82.8	85.5	88.8	2.7		
				③	将来の夢や目標を持っている。	45.7	69.5	59.7	23.8		
				④	好きな授業がある。	100	90.1	84.1	-9.9		
					集計						

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目						達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		・全項目において、達成度を90%以上にする。	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	71.4				・日曜日を休養日とする意識は、高くなっている。 ・定時退庁がなかなか達成できていない。 ・自分の役割を果たすことで精いっぱいで、他の部署の仕事の応援ができない。また、援助が欲しいときもなかなか声をあげられない現状がある。	・会議終了予定時刻を設定し、効率の良い提案、進行を心がける。 ・行事や会議予定などは、早めの提案を意識し、計画的に業務を進められるようにする。 ・仕事の効率化を図るために、仕事の優先順位をつけたり、仕事内容の精選をしていく。
				②	学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	77.1					
				③	日曜日は休養日としている。	91.4					
				④	月1回は定時退庁を実現できている。	65.7					

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	・②③の項目の達成度を90%以上にする。	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	77.2				・校内研修会、若手研修を兼ねた指導案検討等を行い、目指す授業スタイルの共有は行っている。 ・①においては、学校研究の意図をしっかりと把握できておらず、教員間での意識のズレが見られる。 ・②において、互いの授業を参観する機会を設けていたが、この取組のねらいにはあまり近づけなかった。	・授業改善として、教師も生徒もわかるように、授業のスタイルを可視化する。 ・ICTの活用について、積極的な研修を行い、授業で取り入れていく。 ・互いの授業を見合うための期間は設けるだけではなく、その期間での学びを互いに活かしあえるような取り組みを考える。
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	71.5					
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	82.9					
					集計						
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	・①②⑤の項目の達成度を中間80%以上、年度末85%以上にする。	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	85.7	86.2		0.5	・③において、教員と生徒の目指す姿にズレが見られる。 ・授業での振り返りの活動を取り入れてはいるが、変容の実感を問うようなものになっていない。 ・端末の活用について、教員はもっと活用したいと考えているが、ネット環境の問題もあり、活用しきれていない。	・目指す姿、到達目標を生徒にきちんと明示する。 ・モデルや見本を示しながら、発表や表現する場面を意図的に増やしていく。 ・振り返りの内容、やり方を教科部会の中で考え、共通して行っていく。 ・ネット環境に限らず、いつでも授業において端末を使用することができるよう、熟練者を講師とした校内研修会を行っていく。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。	88.6	86		-2.6		
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。	60	73.3		13.3		
				④	児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	91.4	88.8		-2.6		
				⑤	児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。	94.3	86.4		-7.9		
				⑥	児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	68.5	86.9		18.4		
				⑦	生徒は、「進取」のスタイル（学習規律）を意識している。	88.6	90.8		2.2		
					集計						
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	・全項目の達成度の平均を80%以上にする。	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	91.4				・生徒の実態把握に努め、学力向上に向けて取り組んでいる。 ・④については、あまりできていない。	・小中連携において、機会をとらえて学力にしぼった情報交換、課題の共有の場をつくり、ともに方策を考えていく。
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。	91.4					
				③	全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	88.6					
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	68.6					
					集計						
		家庭学習	・各項目の達成度を、①中間80%以上、年度末85%以上、②中間70%以上、年度末80%以上にする。	①	家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	82.9	71.9		-11	・自分で計画して家庭学習に取り組む生徒が少ない。 ・端末を活用した家庭学習課題を出すことはできなかった。	・家庭学習の内容、提示の仕方、授業とのつながり、評価方法などをさらに工夫する。 ・Qubenaを活用した家庭学習課題を積極的に取り入れる。
				②	学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	40	49.2	61.5			
					集計						